

□【平成25年北方建築総合研究所調査研究発表会を開催します】

平成24年度に終了した研究課題の調査研究発表会を開催します。開催日及び場所は以下のとおりです。

開催プログラム等詳細については、決まり次第、ホームページ等でお知らせ致します。

皆様の参加をお待ちしております。

開催日 平成25年5月16日（木）
場 所 旭川市大雪クリスタルホール
（旭川市神楽3条7丁目）

（企画課 神田）

トピックス「適確な構造審査のために（構造審査技術の維持向上）」

平成17年11月の構造計算書偽装事件を契機に建築確認審査が厳格化され、平成19年6月から「構造計算適合性判定制度」が導入されました（この施行前の平成18年度は北海道が独自に構造計算書の再計算チェックを行うこととし、当研究所が担当していたことはあまり知られていないかもしれません）

以降6年が経とうとしていますが、本年2月末時点で2481件、3269棟の判定依頼を受けました。様々な材料や構工法、設計思想で持ち込まれる構造設計に対し、常に適切な判断ができるか自問しなければなりません。設計者の意図を十分把握し計算過程が明確な図書上の表現となるよう議論を展開するために、次のような活動を通じ常に審査技術の維持向上に努めています。

◆他機関における長期研修や情報交流

平成23、24年度は、（一財）日本建築総合試験所において1ヶ月間の技術研修を行いました。他機関の審査手法や視点は大変参考になりますが、特にここでは性能評価業務を実施しており、超高層建築物等の評価過程や審査の視点を学ぶことができました。

また本年度は（一財）福岡県建築住宅センターと審査技術や手続き等に関する情報交換を行いました。ここは、判定員数と判定件数の構成比が当センターと比較的似ており、今後も情報交流を継続していく予定です。

◆外部判定員との情報交流

判定依頼の集中期には、外部の構造計算適合性判定員に判定の支援を依頼しますが、審査方針の違いやばらつきが生じないように、「判定員連絡会議」を開催して情報交流等を行っています。これは、今後も定期的で開催する予定です。

適切な構造審査は、建築主事等の確認担当者にも求められます。当センターでは、建築確認全体としての審査技術向上を目ざし、建築確認担当者に対する研修等を実施しています。

◆当センターでの技術研修

北海道本庁・振興局の審査担当者を対象に、構造計算プログラムの操作や模擬審査による研修を実施しています。本年度は16名の参加があり、今後も継続して行う予定です。

◆振興局等での構造研修会

当センターから振興局等に出向き、道や市の建築主事および審査担当者を対象に審査の視点等について構造研修を行い、最近の状況や地域ごとの課題に関する意見交換を行っています。平成20年度から毎年実施しています。

この他、法令基規準の最新情報はもちろん、新しい材料や構工法等の審査に必要な情報収集を行い、また構造計算プログラムや建築学会規準等の講習会にも参加し、適確な審査と判定の円滑化に努めています。

(構造判定G 十河)

=====
研究紹介「構造計算適合性判定センターにおける調査研究」
=====

当センターの「構造計算適合性判定」は、建築確認審査の一環として行われるものですが、建築確認全体での迅速適確な審査を進め、道内建築物の安全な設計に資するために「建築確認業務における構造審査等の円滑化のための調査」を実施し、次のような情報収集・分析、情報提供を行っています。

(1) 構造審査・構造設計の参考となる情報提供

構造計算適合性判定における審査を通じて、モデル化や構造計算プログラムの設定例、質疑事項等を整理分析し、審査や設計上、また一貫構造計算プログラムの利用上問題となりやすい事例について参考となる情報としてまとめます。今回は、架構内方立て壁等のモデル化や剛性評価について計算プログラムやFEMを用いて整理します。また、設計に対する質疑事項とその傾向等を整理分析します。これらは、構造審査者や構造設計者の方々の参考になるようホームページ等を通じて情報提供します。

(2) 建築確認の審査者との情報共有

毎年振興局等で構造研修会を開催し、調査研究で得られた情報を用いて、構造審査の観点や最近の問題、計算出力の要点、関係法令規準等に関する研修を行っています。建築主事や審査担当者と審査上の情報を共有することにより、建築確認における構造審査の円滑化が図られると期待しています。同時に審査上の問題や疑問についての意見交換を実施しています。ここで集約した意見や

審査上の疑問は、さらに整理分析してまた情報発信されます。また、今年度からは、北海道本庁・振興局の審査担当者を対象に、構造審査技術研修も実施しています。

当センターが実施する調査研究は、判定の審査業務と一体となって進められます。構造審査を担当する方々とともに審査技術の維持向上をめざし、厳正適確で一貫性のある審査を迅速に進めるよう努めています。

(構造判定G 十河)

=====
最近の研究所の動き
=====

■【2013木製サッシフォーラムを開催しました】

2月8日(金)に「2013木製サッシフォーラム サッシを考える」を旭川市大雪クリスタルホールで道総研林産試験場、北海道窓協会との共済で開催しました。

第1部の講演では、「サッシの役割」「サッシの海外事情」「木製サッシの塗装」「サッシを長く使うために」と4本の講演を行いました。

第2部では、第1部で講演いただいた講師の方と参加者の意見交換会を行いました。

102名の方にご来場頂き、第2部でも積極的な意見交換が実施出来、木製サッシに対する興味と高い期待を感じることが出来ました。

今後も当所が有する研究成果や知見を積極的に情報発信を行っていきたいと思います。

(企画課 神田)

■【くしろ安心住まいフェアに参加しました】

2月16日(土)、釧路市こども遊学館で開催された「くしろ安心住まいフェア」(釧路総合振興局主催)に参加しました。

北総研は主に防災関係のコーナーを担当し、室内避難体験では、夜間の大地震を想定した避難ということで、停電した中で服を着て、室内の散乱物を避けながら、玄関で靴を履き、外に出るまでを模擬体験してもらいました。実際には、アイマスクを着用し、上着を手探りで着て、ペットボトルを避けながら四つん這いになり出口まで行くというもので、視界を遮られての行動に、子ども達は特に不安を感じている様子でした。

また、建物の構造が分かるペーパークラフト教材を使用し、地震に弱い建物の特徴や筋交いの効果について、楽しみながら学んで頂きました。

総判定日数（受付から結果通知までの期間）の平均は39.9日、実判定日数（設計者の修正期間を除く実際の審査期間）の平均は11.2日でした。

（構造判定G 十河）

※※

【編集後記】

3月に入り、旭川では日毎に雪融けが進み春の気配を感じるようになってきました。この時期、研究報告のとりまとめ、研究予算の完了実績、外部委員会への出席、研究課題評価や会議・研修会開催等、年度末のとりまとめ業務に職員が奔走しています。同時に新年度の準備も始めています。今号では4月以降の行事についてもご案内しており、予定が決まりましたら順次このメルマガでご案内致します。

今後ともメルマガを通じて北総研の情報を積極的に発信していきたいと思えますので、皆様方からも情報やご意見などありましたら是非お寄せください。

（企画課 細谷）

=====
 管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。
登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。
メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html
変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メルマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：（地独）北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所